

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成29年 1月24日更新

事務事業名	翔陽高校線路線バス運行业業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり		所属部	政策部	課長名 大茂 竜二
	施策	4	公共交通の充実		所属課	企画課	担当者名 吉田 健悟
	施策の柱	12	公共交通の利便性の向上		所属班	企画広報班	(内線) 1254
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	根拠法令	成果優先度評価結果
	一般	2	1	11	11466		コスト削減優先度評価結果
終了、開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 27年度で終了 <input type="checkbox"/> 27年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 21 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)	

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	<p>熊本電鉄のバス路線再編計画に伴い、当該路線(花立車庫~すずかけ台・竹迫經由~翔陽高校行き)が平成21年3月に廃止された。当該路線バスの利用者の大半が合志市在住の生徒であり、廃止されれば通学手段がなくなることから、平成21年4月から市が実施主体として「武蔵ヶ丘北口~すずかけ台・竹迫經由~翔陽高校」(1往復/日)の路線を運行を開始した。現在は「御代志~新地団地・すずかけ台・竹迫經由~翔陽高校」(1往復/日)の運行を実施している。運行形態としては、熊本電鉄側に運行委託を行い、一般路線バスとして一日1往復、高校の授業(年間約220日)に合わせて運行している。*高校生以外も利用できる。</p> <p>(経緯)                  平成21年度:「武蔵ヶ丘北口~すずかけ台・竹迫經由~翔陽高校」(1往復/日)                  平成22年度:新須屋まで路線延長及び復路を1便増便(往路1便、復路2便)                  平成23年度:路線変更等なし                  平成24年度:御代志駅まで路線延長及び復路を1便減便(1往復/日)                  平成25年度:路線変更等なし                  平成26年度:路線変更等なし                  平成27年度:路線変更等なし</p>
【業務の流れ】	運行計画の策定、運行契約と実施、運行費の算定・支払いなどに係る事務手続きを行なう。
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者からは、通学手段として重要であり、廃止は困るとの意見があった。</li> <li>翔陽高校からは、通学手段がなくなれば合志市内から入学を希望する生徒にとっても影響は大きいとの意見があった。</li> <li>沿線の他自治体(熊本市、菊陽町、大津町)は、利用者のほとんどが合志市民であることや、自身の交通網には影響が少ないとの判断により、事業への参画はできないとの意見である。</li> </ul>

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動)(DO) ・御代志駅~すずかけ台・竹迫經由~翔陽高校バス停までの路線バス運行した。(便数は1日2便(1送1迎)を運行)		28年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 当該路線の廃止
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由 当該路線廃止による委託料の減
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 翔陽高校へ通学する本路線バス利用者		②対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位) ア:年間利用者数 人
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 安全に、かつ安心して通学できる。		③成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位) ア:計画運行便数に対する実運行便数の割合(自然災害による運休を除く) %
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠 対象を安全、安心して通学(移動)できることが意図であることから、計画運行便数に対し実運行便数の割合(自然災害による運休を除く)を設定した。		総トータルコスト 全体計画 ~年度 0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	25年度実績(決算)	26年度実績(決算)	27年度目標(当初予算)	27年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	29年度予定	30年度見込	31年度見込
①活動指標	ア									
	イ									
②対象指標	ア	人	5,477	4,179	5,500	3,830	0	0	0	0
	イ									
③成果指標	ア	%	100	100	100	100	0	0	0	0
	イ									
投資 入 費 量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	1,245	1,335	1,415	1,776			
		(A)事業費計	千円	1,245	1,335	1,415	1,776	0	0	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	0	0	0
	延べ業務時間	時間	50	25	50	105	0	0	0	
	(B)人件費計	千円	199	99	199	389	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,444	1,434	1,614	2,165	0	0	0	

事務事業名	翔陽高校線路線バス運行事業	所属部	政策部	所属課	企画課
-------	---------------	-----	-----	-----	-----

## 2 評価の部 (CHECK)

\*原則は27年度の事後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 計画どおりの運行が実施できた	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②28年度目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 現状のまま事故なく運行することが目的であるため。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 レターバス→JR光の森駅→JR肥後大津駅→翔陽高校という通学方法も考えられるが、定時制の確保の問題から現実的ではない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 現在2便(1送1迎)であるため、これ以上減便はできない。また、現状では大幅な利用者の増加は見込めないため、運賃収入が上がらず事業費の削減は困難である。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 運行に係る事務のみであり最小限の人員である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 熊本電鉄の路線バスとして運行しており、学生のみでの利用ではないため。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 公共交通機関の維持存続は市で担い、市民は公共交通機関を利用することで役割を担う。

## 3 評価結果の総括 (CHECK)

学校側の方針に「部活動への参加」があるため、部活終了(下校)時間と帰宅便ダイヤ調整が困難であることが利用者増加に繋がらない一つの要因であるが、学校側と連携して利用促進の取り組みを検討したい。

## 4 今後の方向性(事務事業担当課案) (ACTION)

<p>(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>廃止   <input type="checkbox"/>休止   <input type="checkbox"/>目的再設定   <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携   <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善(効率性改善)   <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(公平性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策</p>																						